

なんという美しさだろう。
思わず息をのんだ。

この秋、くしくも鬼怒川の堤防決壊の被害から免れた、茨城県の国道沿い一面に広がる田園風景を目の当たりにした。そこは一面、黄金色に輝く稲穂の波だった。実りの秋の到来だ。

人は故郷や祖国の恵みに自分が生かされてきたことを、いつ頃からはっきりと認識するものだろう。私は眼前に広がる故郷、日本の大地に思わず合掌した。

今年も東京を離れ、地方の自然から圧倒的な感動を味わいながら、全国演奏旅行を続けている。

そこへ、大村智教授のノーベル賞受賞という素晴らしいニュースが飛び込んできた。大村さんは幼い頃から土を耕しながら育ち、多くを自然から学ばれ、深い感謝をお持ちだった、と語っておられた。

また、日本人は昔から微生物をよく知った上で、世の中

失いたくない「まδει」の心



のため、人のためと農作を営んできた民族だ、とおっしゃる。その上、科学者は謙虚でなければならず、自然と芸術は人間をまともにする、と明言された。

人類を救う偉人のこの言葉は、世紀の発明と同様の真理と感動を多くの方に与えたのではないだろうか。

折しもこの日、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉が大筋合意した、と政府から発表された。日本の農林水産業界にはこれから大きな変化が到来するであろう。

その変化にあっても、日本の農業、林業、そして水産業では「まδει」という言葉を大切にしてほしい。福島県飯館村の方言だ。「真手」から

由来するといい、丁寧にゆっくりと両手で包むように愛情深く、という意味だ。

自然を征服、管理するための数と時間の競争ではなく、先祖から受け継いできた自然への感謝と畏怖の気持ちを忘れずに、丁寧に愛情のこもった世界一の良いもの作りを貫いてほしい。それは、誰にもまねできない日本人の心であり、力だからだ。

私自身も今一度、自然と私たちの営みについて真剣に向き合いたい。いつまでも、その恵みに自分が生かされてきたことを感謝できるような国であってほしいから。

(さとう・しのぶ＝声楽家)
＝毎月第3金曜日掲載

